

(8) 嬉野市の学校関係者評価のキーワードは、次の6つです。

① 説明責任

情報提供を適切に行い、学校の説明責任を果たすことが、学校関係者評価の前提となる。適切な情報内容、迅速な提供が鍵を握る。

② 情報量（評価機会）

評価をしていただく機会をどのように設定し、どれだけの情報量を基に、評価をしていただくかは、評価結果への反映という点で重要である。

③ 客観性と納得性

学校関係者評価の目的は、客観性、的確性、透明性にある。学校関係者評価の評価基準に「納得できる」「だいたい納得できる」・・・という文言を用いた実践もある。学校自己評価に対して、「納得性」という視点で評価する。

④ 学校自己評価と学校関係者評価の“ずれ”

最も期待することであり、学校改善に直結すると考える。

⑤ 参画

学校改善のためには、全教職員の共通理解が必要であり、学校関係者評価委員と一体となった協議も有効である。



⑥ 機能性

外部評価後の学校改善の取組に、迅速に反映させることが重要である。

(9) 嬉野市の学校関係者評価の要素について次のような対策をしています。

キーワード	要素	対策・工夫等
①説明責任	情報提供	○情報提供の工夫（メール配信、学校便り地区回覧、学校活動説明会の開催、HP等） ○学校行事の工夫（日曜参観年3回、授業の見所配布等） ○事前資料配布（協議の深化のため） ○職員会議の生徒指導関係に、学校関係者評価委員が出席
②情報量	評価機会 評価時間帯	○1日参観による学校生活状況の把握 ○年間を通して、学校行事（体育的行事、文化的行事）等への案内を出し、日頃から評価依頼
③客観性 的確性 透明性 納得性	人 選	○忌憚のない意見の収集（近すぎず、遠すぎず） ○接続校教員（同業種から一步離れての評価）
	評価項目 評価基準	○年度初めに評価項目を提示 ○小中9年のスパンで、共通項目を定めて、その変容を評価 ○学校自己評価に「納得できるか」という基準での評価
④ず れ	要因の究明	○学校と学校関係者の評価の“ずれ”の要因を究明する。 ○その要因を一つの客観性ととらえ、改善策を導き出す。
⑤参 画	協 議	○学校関係者評価委員と教職員による学校自己評価の協議 ○共通理解、共通実践の確認と意識化
⑥機能性	学校改善	○学校改善を意識した評価方法の工夫 ○学校関係者評価を迅速で、適切な学校改善へ反映する。